



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ②

ボーナス交渉で労働組合の真価が問われる！ 声をあげなければ何も変わらない！

ボーナスの支給額の決定は、一般的には労使の力関係とされています。今年の冬のボーナスは、コロナ禍の影響で赤字決算という状況の中で交渉が進められます。つまり、労働組合の真価が問われます。

ボーナスは、低賃金で働く労働者にとっては必要な生活費です。決して棚ぼた的な要素ではありません。ボーナスをあてに住宅や自動車などのローンを組んでいる社員は多くいるはずで、大幅カットを許したら、生活は破壊されてしまいます。

私たち社員は、コロナ禍の中で、感染のリスクを負いながら職務に就いてきました。会社が「苦労した者が報われる」と言うのなら、ボーナスで社員の苦労をねぎらうべきなのです。また、テレワークをした社員と普通に出勤した社員では、負ったリスクは圧倒的に違います。会社は、そこにも応えるべきです。

さて、今後の冬のボーナス交渉の行方ですが、会社は赤字決算や低調な乗車率を言い訳に、ボーナス回答を低額に抑えると予想されます。JR東海ユニオンが、赤字など経営危機を根拠に、会社の意を汲んで「ガマンしましょう」として妥結したら、組合員・社員は報われません。JR東海ユニオンが妥結の言い訳をしたところで、組合員は納得しません。

会社の言いなりになる組合は現に社内存在し、低額妥結に流されていきそうに思いますが、ここであきらめてはいけません。労働組合の枠を超えて、全社員が冬のボーナスカットを許さないという声をあげていかなければ、何も変わりません。

JR東海労は、全社員の立場に立ち、冬のボーナスのカットは許さないという姿勢を貫きます。

**JR東海労はコロナ禍を理由に労働者へ
我慢と犠牲を強いる会社を許しません！**